

<金標準、CPI を受け FOMC まで下値模索の展開か・・・>



(出所：オアシス)

市場は、今週 16 日（日本時間 17 日 AM3：00）の FOMC に注目が集まると思われる。特に週末に発表された消費者物価指数（CPI）は、前月比で 0.4%、前年比でも 3.4%上昇となり、前日の生産者物価指数（PPI）と合わせて FOMC における利上げ確率が 72%から 87%まで上昇している。また ECB 理事会でもインフレ抑制の動きに政策金利を 6 月以来 0.25%の引き上げを実施しており、世界的な利上げ観測が高まりを見せている。特に金価格は「金利を生まない商品」であり、金利の上昇は悪材料となる事から価格は軟調な動きに傾きやすい。また円建ての金標準先物は、日銀の利上げ確率の上昇や大幅な利上げ可能性の高まりを受けた、円キャリートレードの巻き戻しに伴う円高のトレンドに円建て価格は二重の値下がり結び付いている。そのため今週開催の FOMC まで下値模索の展開が予想され、先週の安値 21973 円、21917 円、21903 円の下値抵抗を確認する値動きが続くと思え、戻り売り基調の値動きに備えて FOMC まで静観するのが妥当に思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD が下げながら、シグナルも下げている。RCI は短期が -95%以下で維持し、長期は下げている。また日足が指数平滑移動平均線のレンジを下回っており、弱気を示唆する動きに思え、21500 円に向けた動きに注意したい。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,615,000 円(2026 年 9 月 14 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 95,040 円(2026 年 9 月 14 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>